ハシケイ 5m

VOL. 8

手をのばせばすぐふれられる。

そんな世界を知るマガジン

FEATURE

アドナース京都音楽療法センター
中澤あすかさん

バザールカフェ
小島麗華さん
カシャン久美子さん
しずかさん

COVER ART OF HANKEI5m

今号の表紙アート

「南山城学園」佐藤佳世子さんの作品

京都府城陽市を中心に、宇治市、京都市、大阪府三島郡島本町にて、障がい者や高齢者の支援施設を運営する「南山城学園」。城陽市の「障害者支援施設 円」では、知的障がいのある方など約60人が共同生活を送っています。今回の表紙アートは、こちらで活動している、佐藤佳世子さんの作品です。水彩絵の具で描かれているのは、施設内で見つけた小さな花。色とりどりの花を見ていると、佐藤さんの明るい人柄が滲み出ているかのように感じられます。佐藤さんは週に2〜3回アトリエに訪れ、陶芸や絵画制作に取り組みます。手先が器用で編み物や折り紙も得意。でも「絵を描くことが一番楽しい」と話します。

アトリエには、たくさんの作品が飾られています。「ここに保管しているだけだと、もったいない。もっと多くの方に活動を知ってほしい」と話す、施設長の吉岡さん。2023年1月には地域のショッピングモール「アル・プラザ城陽」にて展覧会を実施。4日間の会期中、なんと毎日100人ほどのお客さんが訪れたそうです。7月18日からは京都市上京区にある障がい者アートギャラリー「art space co-jin」で展覧会を開催。アートが、地域社会と支援施設をつなぐきっかけになっています。

南山城学園 ホームページ
https://minamiyamashiro.com

ハンケイ 5m

手をのばせば
すぐふれられる。
そんな世界を知るマガジン

VOL.8

CONTENTS

表2 …… ハンケイ 5m ショップ
7月〜9月イベント開催情報

FEATURE 1

02 …… 中澤あすかさん
音楽の力でプラスの変化を目指す
「アドナース京都音楽療法センター」

FEATURE 2

06 …… 小島麗華さん
カシャン久美子さん
しずかさん
皆がありのままの存在でいられる場
「バザールカフェ」

10 …… 俊朗の映画話
薬剤師 DJ の音楽論

11 …… ホホホのすすめ
人形つかいパペの話

12 …… ボッチャサミット@横浜 開催レポート
ハンケイ5mオフィシャルサポーター

13 …… ハンケイ 5m vol.8 発行にあたり
RECOMMENDED CINEMA

ハンケイ5mショップ 7月―9月イベント開催情報

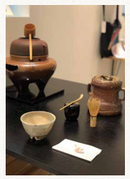
京都・四条烏丸にある、ハンケイ5mショップでは、
店内にてさまざまなイベントやワークショップを開催しています。
最新情報は各種SNSにて発信中！ ぜひフォローしてください。

ハンケイ5mショップ
Instagram
@hankei_5m_shop

ハンケイ5mショップ公式LINE
オンラインショップ・入荷情報は
こちらをチェック！

ハンケイ5mショップ

京都市下京区烏丸通四条下ル
からすま京都ホテル内1F
（京都市営地下鉄「四条駅」
南出口6番 徒歩1分、
阪急「烏丸駅」西出口23番 徒歩1分）
OPEN 月・水・金・土 11時〜19時
TEL.080-8500-8236



7月 洛中で花開いた京都絵師展 & 「みかげ。」商品販売

7月3日（月）〜7月29日（土）

日本画を専門に蒐集されている鳥井光広氏によるコレクションの展覧会を行います。呉春、円山応挙、伊藤若冲、尾形光琳、俵屋宗達など、京都の絵師たちによる作品たちは、どれも美しく迫力があります。祇園祭と合わせ、京都の芸術を堪能できる機会です。また、就労継続支援B型／生活介護の事業所NPO法人SAP「みかげ。」の商品販売を期間限定で行います。祇園祭にちなんだカラーのミサンガやTシャツ、扇子などが並びます。

●鳥井光広氏による講演会（抹茶とお菓子付き）
展示中の作品、京都で活躍した絵師について詳しく解説してくださいます。
日程：7月15日(土) 16:30〜18:00　7月19日(水) 13:30〜15:00　参加費：¥3,500（税込）、定員：各7名

●念珠ブレスレット作り（抹茶とお菓子付き）
日程：7月5日(水)　10:30〜12:00、13:30〜15:00　参加費：¥3,300（税込）、定員：各6名

●ネイルワークショップ（抹茶とお菓子&爪ケアセット付き）
日程：7月17日(月・祝)　11:00〜12:00、13:00〜14:00　参加費：¥2,500（税込）、定員：各6名

8月 「アトリエやっほぅ!!」作品展覧会・グッズ販売

8月2日（水）〜8月30日（水）

京都市伏見区の福祉施設「京都市ふしみ学園」のアート班「アトリエやっほぅ!!」の作家さんによる作品展を開催します。カラフルな色鉛筆画を得意とする吉田裕志さんの個性豊かな作品が見られます。グッズ販売も実施予定なので、ぜひお立ち寄りください。

9月 『ハンケイ5m』2周年記念 表紙展 & 岡本彩さん器展

9月1日（金）〜9月27日（水）

本誌発行2周年を記念し、『ハンケイ5m』表紙展を行います。今号（vol.8）を含め、過去の表紙作品が見られる機会です。また、vol.4で特集した造形作家・岡本彩さんの陶芸作品も販売します。随時開催中の抹茶たて体験では、岡本彩さんの作品を手に取っていただけます。

●#すわりコーデⓇ おしゃべり会
日程：2023年9月15日(金)　14:00〜15:00　参加費：¥1,000（税込）、定員：10名

「#すわりコーデⓇ」とは、車いすユーザーになった看護師の石嵜麻南未さん（享年32才）が「座ったままでもオシャレを楽しみたい」との想いで発案したファッションスタイル。座っているときにこそ映えるオシャレな服装、車いすに乗るときに着用しやすいアイテム、美しく見える座り方など「#すわりコーデⓇ」について考えるトークイベントを行います。車いすユーザーだけでなく、日常的なデスクワークの時間も「#すわりコーデⓇ」が生きるはず。日常をちょっぴり楽しく過ごせるようなアイデアを参加者の皆さんと出し合います。当日は、車いすおもてなし隊の皆さんによる茶道のお点前を披露していただきます。

茶会でお客様をもてなす車いすおもてなし隊。前列中央が石嵜麻南未さん。（着物協力 なかの孝）

定員制のイベントは、ご予約のお客様優先でご案内させていただきます。ご予約は当店に直接またはお電話にて承っております！

※写真は、成人の方との音楽療法セッションを再現しています。（左奥女性はスタッフが代演しています。）

FEATURE 1

音楽の力でプラスの変化を目指す
「アドナース京都音楽療法センター」
音楽療法士
中澤（なかざわ）あすかさん

「普段は表に出てこない小さな思いを、音楽で感じ取ってあげたい」

その音楽には、楽譜がない。奏でられる音は時にたどたどしく、時に爆発的に炸裂する。行きつ戻りつ、いくつもの音が重なり合ってはまた離れ、やがて一つの音楽へとつながっていく。「音には、その人自身が表れます。微妙な音の変化の中に、心の動きが隠れている。『音楽とはこうあるべき』という価値観に従うだけでは見えてこないことが、音楽療法にはたくさんあるんです」。

音楽を通して、心や体の障がいの回復、生活の質の向上などプラスの変化を目指す音楽療法。音楽療法士の中澤あすかさんは、その中でも「創造的音楽療法」と呼ばれる、英国発祥のノードフ・ロビンズ音楽療法を専門にしている。20代で音楽療法士を志し、渡英。本場英国の大学院で2年間音楽療法を学び、その後実務にも就いた。現在は、「ノードフ・ロビンズ音楽療法クリニック」として認定された京都市西京区の「アドナース京都音楽療法センター」を拠点に、活動している。

「クライアントの気持ちの流れを共有しながら、その人の『心の中の音楽』とつながることを大切にしています」と、中澤さんは話す。

音楽と、就職と

中澤さんは、子どもの頃から多種の音楽に触れてきた。7歳からピアノを始め、小学校で鼓笛隊に入り音階のある打楽器のベルリラを担当。中学校に進むとブラスバンド部でホルンを吹き、高校ではオーケストラ部に所属した。大学進学後はマンドリンに熱中し、生活の中にはいつも音楽があった。

「就活時期には、一般企業にはあまり興味がなかった」という中澤さん。大学卒業の年が、いわゆる就職氷河期の真っ只中でもあり、自分の将来を真剣に考えることになる。

「私は、この社会で何をしようか」。自分と向き合った中澤さんの結論は「人の役に立ちたい」ということだった。大学卒業後に看護学校へと進み、看護師になる道を選んだ。そして看護学校時代、医療のスタディーツアーに訪れたカンボジアで、衝撃的な「音楽」と出会う。

「当時のカンボジアは医療資源も乏しく、もちろん楽器も揃っていません。でも、現地の人たちはスプーンやフォークでリズムを取りながら歌っていたんです」。

「表現」に触れて知った、音楽の可能性

譜面に並ぶ音符を演奏する練習を重ねてきた自分の音楽と、カンボジアで出会った音楽はまったく違う。中澤さんにとって、これまでの価値観を土台から揺るがすものだった。

「私は音楽の『練習』をしていたけど、彼らは『表現』をしていた。その自由な演奏に魅せられました」。

カンボジアで感じた、音楽が持つ豊かな広がりと可能性。それは、中澤さんにとって人生を賭けるに値するものと感じた。そんな思いを胸に卒業し、看護師として病院で働き始めてしばらくしたある日、中澤さんは、音楽療法士という職業を知ることになる。それは、たまたま訪れた書店で出会った1冊の本。聖路加国際病院長の故・日野原重明さんが、音楽と癒しについて記したものだった。

「これを仕事にしたい」

音楽で人の役に立つ。音楽療法士こそ、自分が追い求めていた職業だ。

「気持ちを外に出しても大丈夫」という体験は、きっと10年後、20年後に効いてくると思う

中澤さんは看護師をしながら、関東にあった通信制の学校で音楽療法を学び始める。そこで英国発祥のノードフ・ロビンズ音楽療法を知り、32歳で英国に渡ったのだ。

大学院で2年間みっちりと音楽療法を学んだ後、中澤さんは、まず英国で音楽療法士としての第一歩を踏み出した。主なクライアントは、自閉症の子どもたち。音楽療法のセッションで、英国の子どもたちは強烈な感情表現をぶつけてくる。日本とは言語も文化も異なる国で、日々、実践を重ねた。中澤さんは「英国での生活は、私自身も周囲と違うマイノリティ。自分の中に閉じこもりがちな子どもの気持ちを、同じ立ち位置で想像できるようになっていきました。今でも、その時実感したことが生きています」と振り返る。

「心の中の音楽」とつながる

英国で6年半暮らした後、2009年に帰国し、「次は日本らしい場所がいい」と京都へ。緑豊かな京都府綾部市に移り住み、音楽療法士の仕事を続けながら、引きこもり支援の活動を行っているNPO法人にも携わるようになる。

引きこもり当事者との音楽療法では、英国で実践してきた手法が「なかなか上手くいかない」と感じることが多かった。自信を持てずにいる若者たちに「さあ、自由に表現してみよう」と呼びかけて、あの手この手で楽器を即興演奏しても、さした る反応が返ってこなかったのだ。「いろいろな若者たちと一緒に経験を積んでいく中で、『待ってみる』というのも大切だと気づきました。『受け入れてもらえるんだ』と子どもたちが感じてくれれば、そこから、自分のやりたいことを少しずつ出してくれるようになるんです」。

現在、アドナース京都音楽療法センターでは、中澤さんをはじめ4人いる常勤音楽療法士を中心に、主に重度の障がいがある子どもたちとともに音楽療法を行っている。「子どもたちの動きに沿って即興で音楽をすると、全身で反応してくれるんです。子どもたちが型にはまらない活き活きした音楽に応えてくれるおかげで、私の中で音楽がどんどん広がっています」と話す。

音楽療法を通してたくさんのクライアントとセッションを重ね、音楽の幅を広げてきた中澤さん。「たくさんの音を使って華やかな音楽をしていると、時として情報過多になってしまう」ことに、ある日気が付いたという。

小さな鍵盤のキーボード、それひとつで成人のクライアントと連弾した時のこと。『ド』、『ファ』、『ミ』、『ソ』とクライアントが弾いた後に、中澤さんが『レ』、『ファ』、『ソ』、『ド』と弾くことを繰り返していた。最初は1本の指でポツポツと鍵盤を触っているだけだったのが、次第に2本、3本の指を動かすようになり、やがて音がつながり始める。

「だんだんと、私の音とその人の音がつながり出して、そのうちに2人で一緒にくすくす笑いあったりして。両手の迫力ある演奏ではなく、小さな音の、とても微妙な変化。それも大事なんだと実感できるようになりました」。

ノードフ・ロビンズ音楽療法は、「どんな人の心の中にも音楽性がある」という考え方に立っている。中澤さんは「普段は表に出てこない小さな思いを、音楽で感じ取ってあげたい。『気持ちを外に出しても大丈夫』という体験は、きっと10年後、20年後に効いてくると思うんです」と目を輝かせる。

ともに音楽をした経験が、いつかその人の支えになると信じて。小さな音をつないで生まれたメロディは、自由に生きる力を宿している。

イベントで自作詩を朗読する当事者の若者と、音楽でサポートする中澤さん。（上写真2点）

右がポール・ノードフ、中央がクライブ・ロビンズ。

ノードフ・ロビンズ音楽療法とは

作曲家のポール・ノードフと障がい児教育家のクライブ・ロビンズが開発したアプローチ。クライアントとともに即興的に音楽することを通じ、こころの内側からの変化を促す。世界の5大音楽療法の一つで、「創造的音楽療法」とも呼ばれる。

「多様な人が出会い、社会で共に生きる存在だと理解する場所」

FEATURE 2

セクシュアリティ、年齢、国籍問わず、皆がありのままの存在でいられる場「バザールカフェ」

店長 小島麗華（こじまれいか）さん
スタッフ カシャン久美子（くみこ）さん
スタッフ しずかさん

写真左から、小島麗華さん、しずかさん、カシャン久美子さん。

京都市営地下鉄の今出川駅ほど近くに、大きな門を構えた古い洋館がある。開け放たれた門をくぐれば、緑が眩しい庭と広いテラスが広がっている。ヴォーリズ建築の元宣教師館を活用したバザールカフェ。ここでは、穏やかでゆっくりとした特別な時間が流れている。

セクシュアリティや国籍、人種や年齢、当事者と非当事者……。バザールカフェの理念は、あらゆる違いを受け入れてそれぞれの価値観を尊重すること。また、社会の中で共に生きる存在だと、相互に理解し合う場を創出することだ。1998年の開設以来、多様な人たちに開かれた出会いの場として、人と人をつないできたバザールカフェは、日々の営みの中で社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）を実践し続けている。店長の小島麗華さん、運営スタッフのカシャン久美子さん、しずかさんの3人に、バザールカフェが大切にしていること、そして、それぞれの思いを語ってもらった。

――バザールカフェは、全国的に見てもオンリーワンの場であると思います。携わることになったきっかけを教えてください。

久美子：私は同志社大学に通っていたので、学生時代から建物の存在は知っていました。大学卒業後も、点訳ボランティアや勉強会の場所として借りたり、敷地内に以前あった、タイの少数民族の手作り雑貨店に行ったり。元々、お客としてこの場所がすごく好きでした。

ある時、個人的な事情からしんどい事を抱えるようになり、働く必要が出てきました。他のどこでもなく、バザールカフェで働きたいと思い、「ここで働かせてもらえませんか？」と店長の麗華さんに申し出たんです。広い庭と温もりのある洋館、木製のイスやテーブル。そして、ここに集う多様な人たちが醸し出す空気のすべてが、私に落ち着きを与えてくれました。

しずか：私は、アルコール依存症の治療で京都市内の専門病院に通院していた時に、ソーシャルワーカーの方に紹介してもらったことがきっかけです。アルコール依存と子育てに追われ、地獄のような日々を送っていた時期でした。ソーシャルワーカーの方に「バザールカフェの麗華さんも、アルコール依存症を抱えてい

て、あなたと生き様が似ていると思う。一度、来てみたらどう？」と誘われて、初めてここを訪れました。

人見知りもあって、麗華さんと初めて会った時はすごく緊張していました。でも、バザールカフェで働くようになってしばらくすると、アルコールも手放せるようになりました。麗華さんたちと一緒にここで働くことを通して、ありのままの自分でいられるようになったと思います。

私はこれまで、自分の両親に否定されることが多く、偽りの自分を作るのがくせになっていたんです。でも、ここでは泣いてもいいし、怒ってもいい。素の自分で居られる場所なんです。

麗華：バザールカフェは最初から、「ありのままの自分でいられる」ことを目指した場です。開設以来、さまざまな事情を抱えながら、ここを居場所として集まって来た方々と歩んできました。「社会の中で、共に生きる存在だと、相互に理解し合う場」という理念を、この場所で実践してきた確かな歴史があるのです。

だからこそ、傷ついて閉ざされた心や、氷のような心であっても、ここに来ると少しずつ溶けていって、自分のありのままの姿を出せるようになります。ここならではの独特の安心感は、誰かが作ったのではなく、この場に集い、出会った人たちによって作り上げられてきたのだと思います。

――人と人が出会い、つながりを生んできたバザールカフェ。その歴史の積み重ねの中に、人が変わるための不思議な力があると感じます。

久美子：バザールカフェで働くようになって、私は「すごく狭い世界で生きていたんだな」と実感しました。ここで様々な人たちと関わる中で、自分の心が豊かになっていきました。誰しも生活していく中で大変なこと、しんどいことはあるけれど、「バザールカフェとつながっていれば、どうにかなる」と思える。ふわっと包まれるように守られている、そんな安心感があります。

しずか：アルコールに依存していた時は、弟と疎遠だったんです。でも、ここで働くようになってから、弟が「以前のお姉ちゃんは嫌いやったけど、今のお姉ちゃんはめっちゃ好きやで」と言ってくれました。

バザールカフェに来るまでは、引きこもりがちで、子育てのことも一人で悩み、それがストレスになっていたと思います。ここでは、麗華さんやみんなが話を聞いてくれるので、知らないうちにストレスが解消されていくんですよ。

今、ものづくりがとても楽しくて、手作りの鍋敷きなど雑貨を作って販売しています。行く行くは、自分のお店を持ちたいです。そんな自分の新しい一面に気づけたのは、バザールカフェのおかげですね。

麗華：ここに関わっている人たちは、それぞれこの場所に対する想いがあります。これからも多くの人がここに来て出会い、つながってほしい。ここを訪れることで、ありのままの自分に目を向けて、生きる希望を取り戻してほしい。そんな開かれた場としてあり続けたいと思います。

お客さんの中には「おかえり」「ただいま」と言う人もいます。今まで大切にしてきたもの、取り組んできたことを変えることなく、いつ来ても変わらないバザールカフェであること。それを大切にしたいですね。

バザールカフェに流れる不思議な時間

バザールカフェ
京都市上京区岡松町258

Recommended Movie's

俊朗の映画話

年間100本映画を見る俳優・福山俊朗の映画コラム

福山 俊朗

神戸大学在学中に劇団そとばこまちに入団、15年間在籍しフリーに。舞台・テレビ・映画に多数出演。FMラジオのDJ、歌のお兄さん、映画監督などマルチに活躍中。

この作品をご紹介するかどうかものすごく悩みました。「怪物」に関してはなにも言いたくないしなにも書きたくない、というのが素直な気持ちです。なぜならそれは未見の人にはまっさらな気持ちで見に行ってほしいから。僕自身も予告編以外の情報をなるべくいれないようにして本編を見に行き、結果的に自分にはそれがとても意味のあることだったからです。

というわけで内容については申し訳ないですが何も書けませんが、個人的な感想を言わせてもらうと、非常に「よかった」です。どれくらいかというと、映画の途中でなぜか実際に頭を抱えてしまうくらい「よかった」です。

この映画は、今や世界でも認められている超一流のスタッフキャストの人たちが全力でものづくりに携わって、その才能や叡智が抜群のバランスでもって組み立てられた作品だと思いました。そこには「仕事」という枠組みを超えた、この世界を素晴らしいものにするという「哲学」「理念」のようなものを感じました。

「表面的に見えるものと真実の姿は全く違う（ことがある）」この簡単そうで難しい命題を映画というエンターテイメントを通して僕たちに提示してくれています。そして子供達のシーンが本当に美しい。彼らの未来を思うと今でも泣きそうになります。

とにかく見てほしいです。あなたも夜を徹して語り合いたくなると思いますよ。

怪物

2023年 / 日本 / 125分
監督：是枝裕和
脚本：坂元裕二
音楽：坂本龍一
出演：安藤サクラ 永山瑛太 黒川想矢 柊木陽太 田中裕子

©GAGA Corporation.
All Rights Reserved.

Recommended Music

薬剤師DJの音楽論

ゆう薬局の薬剤師によるイチオシ音楽紹介

船戸 一晴（キャッチー船戸）

ゆう薬局の薬剤師、ラジオパーソナリティ、DJ。FMたんご：みゅ～じっくぱふぇCatchy（水曜12時～）。FMまいづる、Radio Mix Kyoto：Premium Kyoto（月曜16時～）。

1989年結成、ヒップホップが広く認知されるはるか前。「日本語でラップをすること」の可能性と方法論を模索し、日本のヒップホップシーンを開拓／牽引してきた3人組のライムスター。今回は、その最新アルバム“Open The Window”に収録された、エンパワーメント・ソング“My Runway feat. Rei”を紹介させて下さい。

実力派ギタリスト／シンガーソングライターのReiとの共同作業で生まれたこの楽曲、高揚感を高めるディスコ／ハウスビートに映えるReiのギター。さらに歌詞のメッセージがまた最高なんです！「誰もがそれぞれ自分のランウェイを歩くように、日々胸を張って前を見て堂々と人生を歩こう」。このコンセプトを基に、Reiから先輩のライムスターへ、歌詞のブラッシュアップ依頼がしっかりあったそうです。ライムスターに言わせれば、それは「歌詞にかける命がけのこだわり！」と思えるほど。互いに意見を出し合いながら細かく詰めていった歌詞には「なりたい自分でいたい」「震える足で一歩踏み出して」など、弱さや辛さも含みつつも、力強い言葉が並びます。テーマの背景にはLGBTQから派生したカルチャーへのリスペクトがあったことも言及。音楽ジャンルのハウス／テクノが生まれる礎となった「黒人ゲイ・コミュニティ」の伝説的なクラブ「パラダイスガレージ」も歌詞に登場します。

多様な方の気持ちを鼓舞する素晴らしい楽曲、特に気持ちが沈む日の帰り道に、ぴったりだと思います！是非聴いてみて下さい。

RHYMESTER

アルバム
『Open The Window』
CONNECTONE

Recommended Book's

ホホホのすすめ

ホホホ座座長・山下賢二が語るおすすめブックス談

山下 賢二

出版社勤務や書店員などを経験し、2004年に「ガケ書房」を開業。2015年移転・改名し、本屋であり雑貨屋でありお土産屋でもある店「ホホホ座」をオープン。

どのジャンルでもその時代の代表的な人物や事柄は歴史に刻まれ、後世に語り継がれる。

お笑いに関しても、70～80年代は萩本欽一、ドリフターズ、ひょうきん族周辺がメインコンテンツとなりがちだ。

今回、この雑誌『昭和40年男6月号』の表紙を見たとき、その歴史的意義を提示した編集部に「すごい！」と尊敬の念を抱いた。

表紙の2人をご存知だろうか。70年代にテレビの人気者だった（らしい。僕は幼少期だったのでうろ覚えだ）。タレントのせんだみつおと歌手の湯原昌幸である。2人はコンビではないが、同年代でノリも似ていてコンビ芸のような形で丁々発止のやりとりを繰り広げていた。本編でスージー鈴木氏が書いている「なかったことになっている70年代の笑い」というコラムが示す通り、先の2人のほか、あのねのね、マチャアキと順（あえてこう呼ぶ）、三波伸介、伊東四朗と小松政夫、藤村俊二、ずうとるびなど、いわゆるBIG3（ビートたけし、タモリ、明石家さんま）が頭角を現す以前にバラエティを席捲していた面々のことを丁寧に取り上げている。ふと思い出すことさえもないような彼らのことを、令和に特集を組んだ英断と、完全検証した誌面に脱帽した。

コンビニの雑誌コーナーにせんだみつおと湯原昌幸の顔が並んだのは、史上初だろう。平成生まれの若者は、本当に誰だかわからないだろう。

昭和40年男
2023年6月号
Vol.79

ヘリテージ
880円（税込）

Recommended Entertainment

人形つかいパペの話

最小のキャパで最高のエンタメを！人形つかいパペの奮闘記。

人形つかいパペ（佐藤譲）

京都大学卒業後、スタジオジブリに入社。雑誌編集職を経験し、日本テレビへ転職。映画プロデューサーとして活躍後、独立。現在、人形つかいとして、京都を拠点に活動。

「きっと人形劇をやるんだ」という直感が、身体の奥底から噴水のように湧き上がって以来、国内外の研究書をいくつも読み、各地で開催されている劇を観に行きました。自分は一体どんな人形劇をやりたいのか、を見つけたかったからです。

ある日、スマホの地図アプリで「人形劇」と入力してみたところ、比叡山のふもとに「人形劇の図書館」という名前が表示されました。「図書館なんて、あるの!?」と驚き、すぐに連絡をして向かいました。そこは小さな私設図書館でした。人形劇に関する本が1万冊以上並ぶ夢のような空間。読みたい本に囲まれながら、10年前の自分を思い出していました。

10年前、スタジオジブリで働いていた頃、仕事終わりにはいつも鈴木敏夫プロデューサーの家へ向かい、蔵書部屋で本を読んで過ごしました。鈴木さんのことをもっと知りたくてジブリに入ったので、私にとって宝の部屋でした。本を読んでいると、仕事を終えた鈴木さんがやってきて「観るか～？」と誘ってくれ、一緒に映画を観ました。蔵書部屋で読んだ本や、鈴木さんとの時間は、その後、映画プロデューサーになる自分の礎にもなりました。

「ここにいれば、私は自分の道を見つけられる気がする」。人形劇の図書館は、人形劇と出会って変わり始めている私が、切実に求めていた場所でした。館長の潟見英明さんと話すと、話題は縦横無尽に広がり、5時間もノンストップで話が続きます。また「師匠と呼べる人」に出会えてしまった。しかも、潟見さんは鈴木さんと同じく1948年生まれでした。

こうして、週に1～2回のペースでこの図書館へ通い始めました。いつしか私は「研究員」という役職をもらい、自分の人形劇をつくり、潟見さんと一緒に舞台に立つことにもなるのです。

ハンケイ5m

手をのばせば
すぐふれられる。
そんな世界を知るマガジン

vol.8 発行にあたり

仕事を通して、自分という人間を理解できる。
音楽療法士からの発見でした。
円城新子（編集）

「ハンケイ5m」関係者が増えてきた。
目の前のことに向き合う、一生懸命な人ばかり。
山田梨世（編集）

誰かと、何かを共有すること。
バラバラに生きる私たちの世界を、
その瞬間がつないでいく。
龍太郎（ライター）

80歳まで生きたとしても人生はわずか4000週間。
「いつか将来のために」じゃなくて、
今を生きていきたい。
呉玲奈（編集）

やすらぎの根底には
いつもの場所、帰れる所、
そして音色がある。
改めて実感した撮影でした
辻正美（カメラ）

はじめ教会かと思った。
葉風のなかお茶するたびに
アジールだと実感した。
向かいに住んでた会社員時代。
バザールカフェの特集がうれしい。
森 華（デザイン）

まだ話せない一歳の息子にも
お気に入りの曲があり、
ぐずっていてもすぐにご機嫌になる。
音楽ってすごい。
北原靖浩（デザイン）

久しぶりの開放的な夏が来ます。
みなさんに素敵なハンケイ5mがありますように。
鎌田智広（スペシャルアドバイザー）

独特のやわらかい時間が流れるバザールカフェ。
どんな人がきてもくつろげる、ありそうでなさそうな場は唯一無二。
中山みゆき（編集）

「ありのままの自分でいられる」場所が、
一つでもあれば、強くなれる！！
鈴木毬乃（編集）

中澤さんの記事から、
表現「すること」の可能性を改めて感じました！
久野泰輝（編集）

今回の記事を読んで「他者を受け入れる姿勢」を感じました。
私も小さなことに拘らず、広く受け入れる心を持ちたい。
木村実那子（編集）

ハンケイ5m
手をのばせば
すぐふれられる。
そんな世界を知るマガジン
vol.8

2023年7月7日発行

発行　株式会社アドナース
京都市西京区大原野西境谷町2丁目14-10
075-754-6174
株式会社union.a
京都市左京区北白川西平井町22-2
075-724-0410

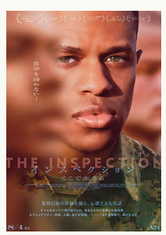
企画・制作　株式会社union.a

Staff　円城新子
山田梨世
呉玲奈
中山みゆき　鈴木毬乃
久野泰輝　木村実那子
龍太郎
辻正美
北原靖浩
もりはなぐみ

スペシャルアドバイザー　鎌田智広

RECOMMENDED CINEMA

京都シネマおすすめ映画



8/4(金)公開
インスペクション ここで生きる

R15+｜The Inspection｜2022｜米｜95分
監督：エレガンス・ブラットン
出演：ジェレミー・ポープ

©2022 Oorah Productions LLC.
All Rights Reserved.

イラク戦争が長期化する2005年のアメリカ。ゲイであることで母に捨てられ、16歳から10年間ホームレス生活を送っていた青年は、生きるためのたったひとつの選択肢と信じて、海兵隊への入隊を志願する……。『ムーンライト』の映画会社A24が見出した新鋭監督のデビュー作は、海兵隊在職中に映像記録担当としてキャリアを始めた監督自身の体験を描き、世界で絶賛された心揺さぶる実話。

上映情報のご確認はこちら
京都シネマ　www.kyotocinema.jp
京都市下京区烏丸通四条下西側　COCON烏丸3F　☎075-353-4723

京都みなみ会館おすすめ映画

7/21(金)公開
ランサム

2023｜日｜84分｜R15+
監督：室賀厚
出演：ユン・ソンモ、吉田玲、中村優一、寺中寿之、長濱慎、紺野千春、小沢仁志

© 阿部写真館/よしもと統合ファンド/チームオクヤマ

超人気グループ超新星の出身で、韓国の映画やテレビで大活躍中のソンモことユン・ソンモを主演に迎えて放つ、パワフルでスリリングなバイオレンス・クライム・アクションの新たな傑作が誕生！　ルール無用、掟破りの銃撃バトル・ロワイアル、壮絶な復讐と裏切りのフルコース、仁義なき身代金争奪戦に生き残るのはどいつだ！？　謎に満ちた実行犯の１人、イ・ソジュンを演じるユン・ソンモは日本映画本格主演は本作が初となる。

上映情報のご確認はこちら
京都みなみ会館　https://kyoto-minamikaikan.jp/
京都市南区西九条川原城町110　☎075-661-3993

掲載データは、2023年7月現在のものです。あらかじめご了承ください。本紙掲載の記事・写真・イラストの無断転用を禁じます。Copyright©2023 ADNURSE Corp.・union.a Corp.All rights reserved.

第1回
ボッチャサミット
@横浜 開催レポート

参加者のボッチャ愛が炸裂！さまざまなボッチャの楽しみ方を、紹介し合いました！

2023年6月23日、神奈川県横浜市の多目的ルーム「エール・アンジュ」にて、第1回ボッチャサミットが開催されました。発起人は、ボッチャ用品メーカー「ステアテックボッチャ」の大澤十三さん。会場には、関東各地域のボッチャ関係者をはじめ、大学、企業などから16名が集まりました。会場中央に設置されたボッチャコートを囲みながら、参加者それぞれがボッチャとの関わりや活動を紹介し合い、交流を深めました。

皆で実践したのは、ヨコハマ・インクルボッチャ・ラボが考案した「詰めボッチャ」。「1人でもチームでも楽しめる！」と、会場は大いに盛り上がりました。さらに、カラーボールを使って簡単に作れる「手づくりボッチャボール」の紹介など、ボッチャの新たな可能性を披露する会になりました。最後に大澤さんが「レクレーションボッチャ協会」を立ち上げたことを報告。皆が共に「ボッチャをもっと自由で楽しいものに！」するため、普及に力を入れる意思を確かめ合いました。次回ボッチャサミットは、京都で開催予定です。たとえば音楽が流れるリラックスした空間で、飲食もしながらボッチャを楽しめたら……。そんな風に、もっと気軽にボッチャで集うイベントも、次回に向けて企画中です！

HANKEI 5M OFFICIAL SUPPORTER
私達がハンケイ5mを応援しています！

Kpc
京都ではたらく人々に
ライフな福利厚生を提案しています。
（公財）京都中小企業振興センター
www.kpc.or.jp

ハンケイ5m 設置・サポーター募集について

『ハンケイ5m』をもっと多くの方に手に取っていただけるよう、新規設置場所を随時募集しています。また、『ハンケイ5m』の価値観に賛同してくださるサポーター企業様・団体様を募集しています。（一口5万円～）お問い合わせは、info@hankei500.comまで。

レクレーションボッチャ協会では「ボッチャでつながる京都」を実現するために本誌『ハンケイ5m』と一緒に企画しています。

京都市内ライブハウスにて飲みながらボッチャ企画中！
続報はFacebookにて発信予定

レクレーションボッチャ協会
会長　大澤十三さん

読者プレゼント

ステアテックボッチャによる、オリジナルネームプレートを5名様にプレゼント！

応募方法：『ハンケイ5m』の公式Instagram【@hankei5m_official】をフォロー。①年齢性別　②ハンケイ5mの入手場所　③面白かった頁、その他ご感想やご意見などお書き添えの上、DMをお送りください。　締切：2023年9月30日am0:00まで
※抽選で5名様にプレゼントいたします。当選者には直接メールにてご連絡いたします。

ADNURSE × union.a